

第4回岡谷市基本構想審議会

会 議 録

【出席者】

○委員（14名）

太田深穂 委員、小口泰史 委員、笠原新太郎 委員、上沼隆弘 委員、小林妙子 委員、齋藤博子 委員、薩摩建 委員、高見澤恒子 委員、武田彰 委員、中村文明 委員、新田隆史 委員、林幸夫 委員、山崎舜次 委員、横内文雄 委員

（※欠席者…太田博久 委員、今井誠 委員、唐澤剛 委員、中畑聖二郎 委員、中村進 委員、中山昇 委員 以上6名）

（五十音順）

（説明者）

○担当部課（18人）

岩垂企画政策部長、尾張産業振興部長、吉澤教育部長、三村教育担当参事、小口健康福祉部長、酒井事務局長

伊藤ブランド推進室長、帯川教育総務課長、小河原スポーツ振興課長、小口介護福祉課長、両角子ども課長、林健康推進課長、名取庶務課長、小野医事課長

医療保険課水野主幹、図書館伊藤統括主幹、ブランド推進室伊藤主幹、小林主幹

（事務局）

企画課	課長	岡本典幸
	副技監	山岡泰一郎
	主幹	宮坂征憲、味澤勝一、清水亮、秋山仁志、野田康裕
	主査	新村尚志
	主事	水澤優馬

計41名

第4回岡谷市基本構想審議会 会議録

平成30年10月12日（金）
午後2時00分～午後4時00分
市役所 9階 大会議室

1 開会

市民憲章唱和

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 部会審議 第1部会

企画課主幹	<基本目標「ともに支えあい、健やかにくらするまち」について説明>
部会長	1つの施策について7分を目安に審議を進めていく。まず、政策1「子ども・子育て支援の推進」の施策1-1「子ども・子育て支援の推進」についてご意見、ご質問をお願いしたい。
S委員	34ページに「多様なニーズに対応した質の高い保育・幼児教育の提供」とあるが、具体的にはどのようなことになるか。
子ども課長	保育の方は、質と言うと、マンパワーで行うものなので、保育士の技能、能力が最たるものになる。多様なニーズとなると現在色々な働き方の父母がいる中で、11時から8時間という時間軸での保育に加えて、朝、夕の長時間延長保育といった、色々なニーズに対応したサービスがある。私立の幼稚園等とも協力して多様なニーズに対応し、良質な保育を提供していく。
I委員	2人目の出産に際して、産休に入ると1人目がやめなければいけない現状があるが、それが書かれていない。多様なニーズということに関連して、2、3人目の出産に対する、1次保育というものはどういうものか。インフルエンザ等にかかったとき、親と子どもを離れたほうがいい場合があるが、保育園ではなく、親族に預ける場合がある。そういった緊急時にも保育していただけるのか。
子ども課長	まず、育児休業について、基本的には家庭でしっかりと育てていただくのが大事だと思っているので、育児休業中には、家庭で育てていただいて、また仕事に復帰する際に保育の必要性が認められるというふうになっている。ただ、兄弟関係があり、2人目の出産により体調が悪いというような場合には、状況に応じて受けることができる場合があるが、基本的には臨時休業中には保育は受けられない。インフルエンザ等、緊急時には病時病の時保育ということで、市内の山崎医院さんのほうで子どもの預かりをするということや、保育園では一時保育ということで預かることもできるので、そういった際にはご相談いただければと思う。

<p>K 委員</p>	<p>生まれた後のフォローに対して集中しており、課題では、男女の出会いや結婚について触れているが、主な取り組みでは具体的に見えてこない。</p> <p>第4次岡谷市総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略では、出生率が一番大きな課題ということであったが、今回は反映されていないのか、反映しているけれども表に出ていないだけなのか。少し掲げておいていただいたほうが、こういうこともやるということが見える。もしあるのであれば、出生数等にいけるのかわからないが、出産の前に関するKPI等も設定する考えはあるのか。</p>
<p>健康福祉部長</p>	<p>第4次岡谷市総合計画のときには、結婚する前の支援等があった。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略でも結婚に対する支援というものも大きな柱として掲げていた。確かに主な取り組みには見えない部分があるが、課題にもあるように、男女の出会いや結婚の機会を創出し、安心して出産できるよう出産前の支援についてもしっかりとやっていくという方向性は変わっていないので、なかなか文章表現上はできていないが、今ご意見をいただいたので、文章表現ができるよう検討していく。KPIについてもあわせて検討させていただく。</p>
<p>R 委員</p>	<p>34 ページに「将来を見据えた子育て環境の充実」とあるが将来を見据えた子育て環境とは具体的にはどのようなことか。</p>
<p>子ども課長</p>	<p>具体的には、61 ページにありますように、計画的な保育園整備を推進し、加えて発達特性のある子どもの療育環境の充実ということでより質の高いものにするために、現在のまゆみ園から新西掘保育園に発達支援の施設を併設していく計画もある。そういったことが、子育て環境の充実という部分につながってくるかと思う。</p>
<p>G 委員</p>	<p>小林委員の際に一時的な対応はできるが、長期的な対応はできないというお話をした。大きな目でみると待機児童が増えてしまうという意味になるのか。出産後の住環境等についてもどのような考えをお持ちか伺いたい。</p>
<p>子ども課長</p>	<p>先程は、少し言葉足らずな部分があったが、育児休業の中ですでに入園があった場合には継続してそのまま入園ができますし、保護者の疾病など家庭の状況に応じて保育は可能です。</p>
<p>G 委員</p>	<p>出産の前であってもだいたいの流れが想像できれば子ども課のほうへ相談にいけば、対応はしていただけるのか。</p>
<p>子ども課長</p>	<p>妊娠後、事前にいつから利用したいのか等の相談していただくこともしている。</p>
<p>健康福祉部長</p>	<p>後段の部分の回答になりますが、健康福祉部では、結婚した後の住環境の支援ということで、アパート代、引越し代等についても補助金を出している。ただ、所得制限がありますので全ての家庭にとということではない。「居住環境の充実」でも一緒に考えていきたい。</p>

部会長	<p>続いて、政策 2「福祉の推進」、施策 2-1「地域福祉の推進」についてご意見、ご質問をおねがいしたい。</p>
R 委員	<p>63 ページの主な取り組みの部分の地域サポートセンターの充実というところで、4 総のときに充実が図られて全区に地域サポートセンターが設置されたわけだが、そういうことを踏まえると、K P I の部分の避難行動要支援者個別計画申請率の 64%という数字を見ると各区でレベルの差があるように感じる。そういう中で実際にはどういう取り組みをしているのか見えない。</p>
健康福祉部長	<p>地域サポートセンターが昨年全区にできたということで、地域の拠点となるもっと拡充をしていこうということで、各区の区長、地域サポートセンター長、地区社協の会長達で構成する、地域福祉ネットワーク会議というものを今年の 7 月に発足させた。今後もこの会議を通じて、地域の皆様方の知恵とお力をお借りして推進していきたいと考えている。</p> <p>避難行動要支援者の部分では、委員さんのいうとおり、区ごとに登録率はかなり違い、低いところは 3 割ぐらい、高いところでは 8 割を超えている。民生委員がいる地区会長会にこのデータを示し、行政も関わりながら、申請率を上げていくようともに取り組んでいる最中です。</p>
企画課主幹	<p>今の林委員さんのお話に関連し、質疑等連絡票により事前に質問があったので、報告する。成果指標について、登録申請率 100%を目標として地域福祉事業の評価をするのは、もう一度検討が必要ではないかということと、避難行動要援護者登録台帳の活用状況を確認し、レベルアップを図る必要があるのではないかというご意見をいただいている。</p>
G 委員	<p>避難行動要支援者の登録はいつまでたっても 100%にならないと思う。各区で事情があるので、仕方の無いことだが、100%を目指すということをやっと続けていくということの方が、大切だと思う。</p>
健康福祉部長	<p>先ほど、事務局のほうで台帳の活用ということで話が出ましたが、この台帳につきましては、民生委員や、地区、社協の皆さんなど、自主構成組織の皆さんなどに名簿を提出しており、そこから消防の方などと共有しているものでだが、聞いたところによると、地区の防災訓練で名簿を活用した安否確認の訓練が行われ、総合防災訓練でもこれを活用しているので、登録するだけでなく、有事の際も地区の皆さんと協力しながらしっかりと対応していきたいと考えている。</p>
R 委員	<p>要支援者の関係で、「私はいいです」という方々には、地域サポートセンターの皆さんは、どのように取り組んでいるのか。</p>
健康福祉部長	<p>今現在、要支援が必要な方の中で、登録をしていない方が約 570 名いる。この方々へは、頻繁に登録勧奨をし、民生委員の方に声をかけていただいているが、拒否をする方が非常に多い状況。そういった方々の名簿だけは、把握しているので、情報共有を図り、見守り体制ができればと考えている。</p>
部会長	<p>施策 2-2「高齢者福祉の推進」についてご意見、ご質問をおねがいしたい。</p>

企画課主幹	<p>横内会長より事前に質問が出ている。高齢者福祉の推進について、「課題の4番目に認知症について書かれてあるが、できれば主な取り組みに、認知症に対する取り組みを書いて欲しい。また、K P Iの目標は減少させるほうが良いのではないか」という質問が出ている。</p>
介護福祉課長	<p>課題4にある認知症の関係だが、計画の方向性ということで、65ページの施策展開のための個別計画で「第8次岡谷市高齢者福祉計画」が今年の4月から3年間ということで始まっている。これに連動して、施策2-2の高齢者福祉の推進には、課題、65ページの取り組みを挙げている。認知症については、主な取り組みのほうの3番目の下段、こちらに「認知症の方や、家族への総合支援体制の充実、医療機関と介護事業所等の連携体制の構築などに取り組みます」と、簡単な言い方をしているが、委員さんの質問ですと、「具体的な施策を」ということだったので、また検討をさせていただく。</p> <p>2番目のK P Iの関係は、以前から要介護認定率をK P Iとさせていたでいる。目標は減少させていくほうが良いのではないかとというご質問だが、要介護認定率は年々少しずつ上がっており、6市町村で行っている諏訪広域連合が保健所として同じように3年間の計画をたてているが、終了時目標は岡谷の16.35%に対し、20%を超えるだろうと見積もられている。27年度の改正により、介護予防事業等を市町村が行うという中で、少しずつだが抑えられてきているということで16.35%を目標値としてさせていただき、若干ずつ上がってきているので、できるだけ抑えた数字ということで使用させていただいている。</p>
K委員	<p>K P Iの部分で、16.35%と刻んでいる数字が、本気の表れなのか、なぜこの数字なのかという事と、目標であるならば下げるべきだという意見がでてしまうような数字であれば、ベースになる上がる予想が示されているのに対し、ここまで抑えるんだということがわかる表記にすると、しっかり取り組むんだということが見えるのではないかと感じたので、フォローを注記等で入れるのはどうかということと、課題の2番目は地域福祉のほうではないかという疑問があるので、そのあたりはどうか。</p>
介護福祉課長	<p>K P Iは、数字だけでは設定の理由がわからないと思うので、注釈を下に入れて、諏訪広域連合の数字に対して、介護予防事業を展開する中で、押さえて生きたいという形で注記を入れさせていただきたいと思う。</p> <p>2番目の課題について、地域福祉のほうは子どもから高齢者まで全体を福祉として捉えてやっている。その中に高齢者があるので、重なる部分はあるが、一人暮らしの高齢者や、高齢者のみの世帯が増えてきているため地域において、そういった方々を支援するという対応をすることで入れている。</p>
R委員	<p>課題の部分で、高齢者の社会参加の支援が必要であることをマスコミでもさかんに言われており、高齢者にとって、自分の居場所というものがあることが非常に大事だそう。そこで主な取り組みの中の最初の部分で「生きがい作りや、仲間作り、社会参画の推進」というところがあるが、仕事としてはシルバー人材センターなどがあるが、その他にどんなところがあって、どのようにしたいのか教えていただきたい。</p>

介護福祉課長	<p>27年度の介護保険制度の法の改正により、地域で支えていかなければならないとなった。先ほど部長のほうから、地域サポートセンターの話が出たと思うが、岡谷市は14年前から、この地域サポートセンターを設置し、地域で支えるという福祉を展開しているが、現在介護福祉課で行っている「生活支援体制」という事業がある。岡谷市を第一層として、生活支援コーディネーターを設置し、各区へ困りごとを聞きに行く、どのようにすべきかを一緒に考えていくという事業が平成29年から始まっている。今年度は2年目だが、現在は各地区の困りごとや、要望を聞いているところ。今後は、各区へ入りまして、アドバイザーの方を講師とし、どのように地域が動いていけばいいのかということをやりたいと思っている。第8次高齢者福祉計画の中で、「学びの岡谷サポート事業」、こちらは生涯学習課の事業になり、「街中観光案内事業」、これは商業観光課、そして「岡谷版コミュニティースクールへの参加」、これは教育総務課、「輝く子どものサポート事業」、これは子ども課、「ふれあいタイム」、教育総務課、そのような社会参画を促す事業も市役所の各課で連携しながら推進したいと思っている。</p>
部会長	<p>施策2-3「障害者福祉の推進」についてご意見、ご質問をおねがいしたい。</p>
G委員	<p>66ページでは障がい者数の推移はほとんどないように書かれているが、36ページにあるようにひとり親家庭に対しても、経済的負担を軽減するとあるが、実際、ひとり親家庭は増加しているのか、減少しているのか。</p>
健康福祉部長	<p>障がい者数の推移については、66ページにあるとおり、トータル数としては増えていないが、中を見ていただくと、障がい者手帳を保持している身体障害者が減少傾向ではあるのに対して、知的障がい者と精神障がい者が増えているというのが現在の推移。ひとり親家庭の世帯数については、ここ数年600ぐらいを推移していた。29年度になって初めて、586世帯と、約20減ってきているが、人口が減っていく中でひとり親世帯数があまり変わらないということを考えると、若干増えていると思われる。</p>
部会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
G委員	<p>先ほどは、障がい者と精神障がい者を一緒にして話をしてしまい、申し訳なかった。この「発達の経過を観察している未就学児」と「特別支援学級児童生徒」が増加にあるということだが、以前は少なかったのが、27年ぐらいから急に増えているようだが、なぜそのようになったのか疑問に思ったので、わかれば教えていただきたい。</p>
子ども課長	<p>「発達の経過を観察している未就学児」は保育園で観察をさせていただいている子どもの状況。ここにきて、27年度は110名と非常に多くて、92名という推移になっているが、「発達障がい」という言葉とか法整備は最近のものである。私たちが子どものときにも、飛び回っているお子さんや、気になるお子さんはいたが、普通に保育園や学校に行っていたが、例えば脳の障がいやそういったことがわかる時代になってきたというのが、大きなところかなと思う。保育園でも気になることがあれば、その</p>

	<p>子の成長を観察するというノウハウがどんどん良くなってきているところ、結果、増加につながっているし、子ども達の成長にはいずれにしてもでこぼこがある。昔は大家族の中で、いろんな方の支えによって、成長が促されてきたが、核家族の父母だけで育てている中では、育ちのでこぼこの部分がわかってくるようになってきたというのがある、両面から増加傾向というふうになっているかと考えている。</p>
G 委員	<p>よりきめ細かく見えるようになったということか。わかりました。</p>
部会長	<p>施策 2-4「社会保障の円滑な運営」についてご意見、ご質問をおねがいしたい。</p>
R 委員	<p>国民健康保険は県のほうに移って1年目終わって約1億円の黒字が出ているわけだが、これは非常に流動的なもの。その中で徴収できていない人の割合が何%かあったと思うが、税の徴収はどのようにされているのか、それと生活に課題をかかえる方が多様複雑化ということで、相談等に対して一人ひとり寄り添ったきめ細かなということがあるのだが、主な取り組みの福祉相談はどのような形でやられているのか教えていただきたい。</p>
医療保険課主幹	<p>国保の制度改正により、29年度1億円基金を作ることができた状況。今後も県の指導、助言を受けながら、県と一緒に財政運営をしていくということになるので、岡谷市だけの財政状況や医療費の動向だけで取り組んでいけるものでもないということもあるため、流動的で難しい財政運営をこれからも強いられていく状況にある。滞納者対策においては、年々滞納額は減ってきている。岡谷市では県と協力し、滞納整理機構へ難しいケースは移管し、滞納処分等でお金に換えて税収にしているという取り組みのほか、健康保険の仕組みの中で、短期の保険証、または資格者証をお出しして、納税の相談をする機会を多く設け、納税の確保に努めている。</p>
健康福祉部長	<p>福祉相談体制の充実の部分の対応は、現在社会福祉課に、「福祉総合相談窓口」を置き、窓口を一本化している。ここでは、生活保護、生活困窮、ひとり親などをすべて1つの窓口でワンストップで、しかも、相談される方は非常に多岐にわたる課題を抱えているので、それらを1つの窓口で連携しながら対応できるように6名の専門相談員がそれぞれ役割を持ちながらワンストップの相談体制をしいているので、その中できめ細かな対応ができるよう今後もさらに充実、強化に取り組んでいきます。</p>
部会長	<p>政策 3「保健・医療の推進」、施策 3-1「健康づくりの推進」についてご意見、ご質問をおねがいしたい。</p>
K 委員	<p>37 ページの健康づくりの推進ですが、第4総の表現のほうが良いのではと思ったのだが。4総には「健康で生きがいのある生活を送ることができるように自分の健康は自分で守る意識啓発」というのがあるが、私は、県の保健補導員に関わっていて、そのスローガンは「自分の健康は自分でつくり守る」ということ。岡谷の保健員のスローガンの中にも「自分の健康は自分でつくって守る」というのは入っているので、「主体的な心身の健康づくりを進める」ということと同じかと思ったが、言葉とし</p>

	<p>てできれば残していただきたい。また、各種健康診断の受診率の向上について、28年度37%というのは、長野県19市中18位の位置だそう。77市町村中でも73位ということで、岡谷市の受診率は本当に低いということ、私も役員をすることになって知ったが、それで、終了時が60%と高いほうがいいのだろうなということはあるが、現在の県の平均は46.5%。県も50%いっていないので、高くしたほうが良いとは思いますが、ぜひ岡谷の受診率が低いところを(39ページの)推進の中にも入れていただきたい。第4総には入っていたと思う。できれば「各種健康診断などを実施」のところに受診率の向上というのも入れていただきたい。</p>
<p>健康推進課長</p>	<p>「自分の体は自分で守る」という部分で、今年から始まった、第3次総合計画の基本理念「健康寿命の延伸」というのがあり、イベントなどがあると自分の体に興味を持っていただき、「自分の体は自分で気をつけよう」というスローガンで各種事業等も行っている。</p> <p>特定検診については、確かに37%というのは低いので、国保の担当とも共有して、健康推進課でやっているがん検診を一緒に行ったり、日曜日検診の回数を増やしたりして、受診率向上のために施策を実行しているところなので、その部分参考にさせていただく。</p>
<p>部会長</p>	<p>施策3-2「地域医療体制の推進」についてご意見、ご質問をおねがいたい。</p>
<p>R委員</p>	<p>主な取り組みの「地域医療体制の充実の」について、私が岡谷病院で人間ドックを受けると、必ず「かかりつけのお医者さんはどこですか」と聞かれるが、開業医の方々の高齢化が進んでいるということはだいぶ前から言われており、その地域医療体制はどうやって充実させていくのかお聞きしたい。</p>
<p>健康推進課長</p>	<p>開業医および診療所等の後継者不足、高齢化については、岡谷市では、市内の医療機関において、新たに医師としてその業務に従事しようとする者に対しましては、従事期間に応じた助成金を支給する「岡谷市医師確保就業支援助成金」という制度で助成をし、医学生に対しては、奨学金、入学準備金、こちらは大学のみで対応し、奨学金免除などの規定を設けた「岡谷市育成基金」などの対策を講じているところ。また看護師についても「岡谷看護専門学校」があり、岡谷市の医師会でやられている「準看護学院」にも補助金を出し医療従事者の育成を行っているところ。</p>
<p>K委員</p>	<p>そもそもの疑問として、KPIを設定していないのは、何か理由があるのか。</p>
<p>健康推進課長</p>	<p>設定は難しいと考えている。</p>
<p>K委員</p>	<p>何か目標があったほうがいいのではないか。医療従事者の養成などを含めて、どれぐらいの充実度を指すのか、計画と目的があるのに、設定が難しいのはわかるが、無いというのは不思議な感じがするので、設定できるようであれば何かをお考えいただきたい。</p>

健康推進課長	わかりました。
S 委員	<p>病院事業の医療スタッフの確保について、新しくなって2年になるが、当時から入れ物は良くなったが、中身を良くしなければいけないということで、職員の対応は非常に良くなった。しかし、耳鼻科は医師がひとりで、大変時間がかかり、朝受付しても、午後でなければ見ていただけないことがある。産婦人科はやっていない。できれば、結婚から出産、子育てまでやるなら、産婦人科もきちんと健全なものを確保していただきたいと思うがいかがか。</p>
病院事務部長	<p>医師の確保の部分は、岡谷市民病院が今後生き残る上で最重要課題ということで認識しており、取り組みを進めているところ。現在の病院事業管理者兼病院長の天野先生が信州大学の2代前の病院長だったという非常に太いパイプがあるので、平成27年4月に就任されて以降、医師の数はだんだんと増えてきていて、本年4月1日は常勤医師42名まで増えてきている。岡谷病院と塩嶺病院が一緒であったときの医師の数を上回っている状況なので、非常に増えてきているが、ご指摘の耳鼻咽喉科と産婦人科については、産婦人科はやっているが、お産に関しては休止をさせていただいている。耳鼻咽喉科も産婦人科も、医師の派遣は信州大学が関連病院として、送ってきていただいているが、耳鼻咽喉科の医局にも医師がいない。信州大学は関連病院をいくつも持っているので、医局に医師がたくさんいれば派遣していただけるが、いないので送れないという状況。現在、梅垣先生がひとりでがんばっていただいているが、もしも医師ひとりの状況が一時的にも難しい、万が一の場合は、余っている医師をいつでも送るよという話はいただいている。産婦人科については、お産の再開というのは、天野病院長をはじめ、病院職員が全員願っていることである。やはり総合病院であるので、緩和ケア病棟のような終末期の患者さんをお迎えする病棟もあるが、院内に新生児がいるかないかで病院が全然違うし、新生児がいれば、小児科もさらに充実しないといけないという課題もあるすが、これも医師が信州大学の医局にいないということと、信州大学もしくは、国の厚生労働省の考え方でいきますと、お産については、各医療圏に大きな病院があって、そこで異常分娩のような難しい対応をし、その周りに普通分娩ができるような診療所があればいいという考え方がある。このあたりだと、諏訪赤十字病院が一番大きな、最終的なところだが、諏訪医療圏にいくつもお産ができる病院はいらぬというのが国の考え方であって、それにまして、医師が少ないということもあり、なかなか現実的にかないところ。議会でもそのたびにお答えしているところだが、なかなか現実が難しく、申し訳ないと思っている。まれに岡谷に帰ってお産をしたいというお声もいただくので、本当に申し訳ないが、まだしばらくは時間がかかるかと思っている。</p>
部会長	<p>基本目標「ともに支えあい、健やかにくらすまち」については、以上となるが、全体を通じて何かご意見あるか。</p>
I 委員	<p>今、岡谷市をみますと、「共助」共に支えあうというのが不足しているのではないかということが一番感じている。私はコレクティブハウジングというのを勉強してきて、この項目でうと、子ども子育て支援、高齢者の生きがい作り、居場所作りに大いに役立つ家の作り方、集まってす</p>

	<p>む住まい方。高齢者一人暮らしの人が大きな庭付きの一軒家で大きなお風呂が必要であろうか、若い一人暮らしの人も大きなお風呂が必要だろうか、2人、3人にお風呂が一つあればいいのではないのか、子どもが学校から帰った後の居場所、そこに高齢者が関係してくる、また保育園の送迎など、要介護率が低いということなので、元気でできることがたくさんあると思う。高齢になってきて、うちの庭の草取りが大変になってきて、シルバーの人を頼むのではなく、共通の庭として、そこで、農産物を作って皆と一緒に食べるとか、実際日本でもたくさんコレクティブハウスができているのだが、私の考えるのは、それを市が賃貸で安全な場所で、持ち家でなく、その人が生きている間、子育てしたい人用の住宅、一般の家庭用の住宅、高齢者でも一人で住めるような。うまくいっているコレクティブハウジングの例は食事をつき何回か一緒にするというので、そこは100人規模だが。そんなふうにして、災害におびえながら、高齢になってもひとりで住んで、自分で自助努力をしてがんばるだけがんばって、後は施設でお世話になるというのが現状だと思うのだが、そうではなく、高齢になってもできることはある。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございます。また、そのような意見を入れていただいて、今後の問題とさせていただきたいと思う。これで一応終わりにする。事務局の方で審議内容のまとめを簡単にお願いしたい。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>施策7つあり、それぞれ貴重なご意見をいただいた。主なご意見としては、子ども子育て支援の関係だが、育休に対する対応や幼児教育の影響、指摘として第4次岡谷市総合計画や総合戦略などのように、出会いや結婚支援そういったものを加えて、今回の中にぜひ記述してほしいとの指摘があり、担当部からは、子どもが生まれる前からの支援を含めているとの回答があり、参考にしながら検討をして参りたいとの回答があった。</p> <p>地域福祉の推進については、地域サポートセンターの現状やレベルの違いなどについて指摘があった。また成果指標である避難行動要支援者の登録について、100%を目指すことは良いことであるとのご意見があった。</p> <p>また高齢者福祉について、認知症に対する記載や成果指標については、もう少し分かりやすくしてほしいとの意見に対して、注釈を設けるなどしていききたいとの回答が担当部よりあった。</p>
<p>部会長</p>	<p>それではこの内容を、全体審議の中で第一部会の部会審議のまとめとして報告させていただく。 慎重かつ積極的な審議をいただき、感謝する。 以上で部会審議を終了する。</p>

(2) 部会審議 第2部会

<p>部会長</p>	<p>施策が全部で4つあるため、一つの施策について約10分程度の時間で審議を進めていきたい。 先ず政策4-1学校教育の推進について、施策の大綱と前期基本計画について質疑をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>第1部会に出席されている委員より質疑等連絡票が提出されている。 先ず質問として、第4次岡谷市総合計画では「学校教育の充実」として、</p>

<p>教育部長</p>	<p>細かく施策の体系が示されているが、第5次総合計画ではこういった意図でまとめられているか、との質問がある。</p> <p>第5次岡谷市総合計画では「施策展開の個別計画」として、「第5次岡谷市生涯学習推進計画」、「第3次子ども読書活動推進計画」、「岡谷市スポーツ推進計画」など、総合計画の個別計画として教育分野で制定している計画を掲載している。</p> <p>岡谷市では、これまで学校教育に関しての個別計画は策定していなかったが、「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」を学校教育の個別計画として位置づけるため、昨年度から策定作業に入っており、今年度中にまとめる予定。このプランの中で、体系を示していきたいと考えている。</p> <p>生涯学習やスポーツについても、個別計画で体系を示しているため、5総の中では詳細を示していない。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>続いて意見であるが、文言として計画に盛り込むかどうかは別として、学校設備ではトイレの水洗化、エアコンの設置等環境に関する施策、教育指導の充実では、教職員研修の充実を図り、児童生徒が発信するキャッチする高いアンテナを持てる教職員であって欲しい。これはいじめや他の要因による不登校を極力少なくするための教職員研修の充実を図ってもらいたい。それから教職員の負担軽減に関する施策展開をお願いしたい、とのことである。</p>
<p>教育担当参事</p>	<p>それぞれの意見については非常に大切な事である。「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」の策定を進めているが、各意見についてはその中で、施策を構想しているところであるため、ご理解いただきたい。こうした要望に行かに対応しているかということが、プランの計画を進めて行く上で大事なことだと思っている。</p>
<p>Q 委員</p>	<p>第4次岡谷市総合計画では、いじめや不登校に関する取り組みが記載されているが、第5次岡谷市総合計画では基本計画のなかに該当する記載がない。プランのなかでは重点的に取り組まれるとのことだが、親のとしてはいじめや不登校は関心の高い項目のひとつ。それに対する言葉が何もないということに対する考え方について、実態が良い状態だからなのか、実態を把握していてそれに対する計画があるのか、そうした点が非常に気になる。</p> <p>また、4総では中高に関する記述があったが、5総では小学校だけで、中高の事が見えない。中高は学校教育のなかでどのような位置づけなのか。盛り込まずに行くのか。</p>
<p>教育担当参事</p>	<p>P77をご覧いただきたいが、主な取り組みの3つ目の中で、長期欠席やいじめの問題を捉えている。子ども相談総合センターを中心として、いじめ、長期欠席、就学支援、育ちなどについて対応を行っているため、個別計画の中に明記してまいりたい。5総策定の基本方針として、個別計画がそれぞれの担当課にあるので、その中で示しているものを全て網羅する形で総合計画には盛り込むことはしない、とされているため、この言葉の中に含めて5総を策定している。</p>
<p>Q 委員</p>	<p>書かれていないものを包含されていると言われても、分かりにくい。</p>

	<p>書かれていないからやらなくても良いという捉え方もできる。そうした点が気になる。重点的に取り組むことなら、ある程度言葉に出して書いてないと、個別計画でやるということが文面に出てこない点が気になる。</p>
教育担当参事	<p>最終的にどのようなまとめができるか、検討したい</p>
部会長	<p>細部の施策については記入しないというのが5総の構成。個別計画をまとめるのが基本計画という構成になっている。</p>
Q委員	<p>いじめとか不登校は、基本的な大きな項目。それを「細かい」としてしまうと、全部「細かい」になってしまう。いじめや不登校は大きな課題という認識の問題。</p>
E委員	<p>5総とプランの策定が同時進行というのはいずれあるのか。同時進行の場合、どこかですり合わせが必要になると思うが、どのように対応するのか。</p>
教育担当参事	<p>基本構想の策定にあたり、庁内的に企画政策部を中心にどのような作りをするのか議論された。その中で今指摘のあった点についてもどのように統一していくのか、企画政策部から示された内容が、こういう形で示してく、とのことであるため、できれば企画施策部から答弁をお願いしたい。</p>
企画課長	<p>第1回審議会でも若干説明したが、これまで総合計画はまちづくりの一番上位の計画として策定してきた。昨今、国の方向性として事業展開する上で、個別計画を策定する動きが非常に多く、様々な分野で個別計画を策定している。そうした中で、個別計画も細かいことが書いてあり、総合計画にも同じように細かく書いてあるということはどうなのか、という議論を行い、総合計画は上位計画という位置づけの中で行けば総体的な大きな事を書き、個別計画で具体的なものを書いていくのが良いのではないかと考え、今回の5総から、若干4総とは異なるが、大きな捉えをした計画という形で策定を進めて来た。</p>
E委員	<p>これで市民のみなさんが理解できるのか。5総を見ながら、個別計画も見ないといけないというのが正解なのか。国の方向性とする、個別計画を推進しているということ。個別計画があり、それに対して、大枠のものを総合計画に載せるということ。最初に話したとおり、策定が同時進行。個別計画が決まり、その中から重要なポイントを5総に載せるという話なら分かるが、個別計画が出来ていない。策定を同時進行で進めて、物事が進むのか。</p>
教育担当参事	<p>ご指摘はかなり重要なこと。プランについては昨年度から策定に入り、策定委員会、外部の有識者を含めご意見を頂く検討委員会という2つの組織を立ち上げ、策定を進めてきている。プランについてはパブコメの準備を進めており、5総の審議会が終わったあとオープンにすることはない。ご心配いただいている内容は殆ど全て網羅したプランになっており、いじめや長期欠席といった言葉が消えることはない。必要であれば、プランを資料として提出することは可能である。</p>

E 委員	<p>パプコメの段階まで来ていれば、殆ど決定した最終的には判断かと思う。要点だけを総合計画に載せるという判断は岡谷市だけなのか、全国的な動きなのか、伺いたい。</p>
企画課長	<p>国が個別計画を重視してきているため、他市町村も総合計画には総体的なことを書き、詳細部分は個別計画という傾向が多い。</p>
E 委員	<p>そうだとすれば、私たちは何を決めているのか。個別計画があって、大項目が並んでいるもの見て、主な課題だけ挙げたものを審議しても、と思うのは私だけか。</p>
部会長	<p>基本構想は基本的なもの、全部の項目の基本のものを掲げ、全部細かいものはできないから、それぞれのプランに委ねるとして、もし突き詰めるならば、下の部分はそれぞれのプランを見て下さい、という理解でよろしいか。</p>
企画課長	<p>考え方は、部会長がおっしゃるとおり。大きなことを基本計画で掲げておき、その中の細かい分野については個別計画に盛ってあるという形になる。</p>
教育部長	<p>プランの策定を進めるなかで、5総とプランとは整合するようになり注意して作業を進めている。もし委員意見で5総の修正があれば、プランについても修正を行うなど柔軟に対応する。</p>
部会長	<p>教育要覧の17ページに学校教育の5つの重点ということが表現されているが、それが今回の主な取り組みの中に取り入れられているが、順番が変わったり、項目がまとめられたり、ない項目もある。教育委員会の方針として5つの重点施策を出したのだから、そのまま基本計画へ盛り込むことはできないのか。</p>
教育総務課長	<p>教育大綱の中で、学校教育の5つの重点を定めている。今年度、5総と合わせて見直しの年となっており、その中で教育委員会の想いとして学力の部分は重点的に取り組んでいきたいという議論があり、今回、学力保障、成長保障という1つの項目を2つに分け整理するなかで4項目としている。学力については重点的に示していきたいという考えであり、プランも同じような作りになっている。</p>
F 委員	<p>子どもの減少、施設の老朽化という現状がある中で、統廃合の事がまったく触れられていないが非常に疑問に思う。4総後期を見ると、少子化に対応した通学区の見直しや小中学校の統廃合、これは岡谷小問題があったからだと思うが、来年、湊小は1年生が6人と聞いている。この問題は入れるべきだと思う。</p>
教育担当参事	<p>魅力と活力ある学校づくり推進プランについて、去年はハード整備、今年度はソフト部分と、2年間に分けて策定を進めている。昨年度ハード版を策定し、議会にも報告したところである。将来推計をしているが、湊小は来年度104人と推計しているが、確かに大分減るが、来年以降100人以上の規模を維持していく。そうしたなかで一定の方針を出さなければならないということで、施設の整備にあたっては1校あたり1</p>

	<p>00人、1クラスあたり10人以上の学校規模を目安として適正な配置をして行きたいということで、ガイドをだした。1校100人、1クラス10人という規模を下回れば、否応なしにそういったことは●●●と 思っているが、現状において小中一貫校などについては、全体で見れば 10%未満。それについて課題や成果があることも承知はしているため、 そうした部分を踏まえるなかで、今後5年間について小中学校の統廃合 はしないという一定の方向を昨年だした。このため、前期の中には盛り 込んでいない。</p>
F 委員	<p>岡谷小は事情が違ったと思うが、市民の中ではいろんな意見がでた。 岡谷小統廃合の話が突然出たため、もっとスムーズに行けたものが、賛 否の否が沢山でた。湊小は1年生が6人。来年が特別ではなく、こうし たトレンドで行くと思う。後期の時には載ってくると思うが、今から避 けて通れないと思う。小中を一緒にするというよりは、小学校をどこか と一緒にする、あるいは小中を一緒にするという様々な手法があるだろ うし、可能性もあると思う。この段階から、統廃合ありきではなく、未 来に対する検討する、検討して行く何かを盛り込んだほうが良いと思う。</p>
教育担当参事	<p>魅力と活力ある学校づくり推進プランの中で、統廃合は検討するとい う立場になっている。これを置いてきぼりにするつもりはないが、今後 5年間は1校当たり100人という基準で行けると見込んでいる。これ を下回るようであれば、当然そういう議論が始まると考えている。ただ、 これを文章にすることについて、痛みを伴うものであるため、プランの 中には歌い込んであるが、基本構想の中で明確に示すことは時期尚早で あると考えている。</p>
F 委員	<p>ぜひ検討していただきたい。次に、学校満足度についてどのように調 べられているか分からない。他のKPIも分からないものがあるが、一 般の方が見たときに、どのような調査をしているのか注記してもらえれ ば良い。</p>
教育総務課長	<p>学校満足度は、学校意見調査を県が実施しており、各学校、学年毎に 全てを調査している。子ども達が学校に対してどのくらい満足している のか数字がでる唯一の調査。他にも学力調査などあるが、学年が限られ たり全てを把握することが難しいため、学校満足度調査を用いている。 分かりやすいように対応したい。</p>
F 委員	<p>他の項目においても、分かりやすい配慮をお願いしたい。</p>
教育部長	<p>補足となるが、現状は小学校の満足度のみだが、中学校の満足度も加 える。</p>
部会長	<p>学校教育の5つの重点の中の3-2「小中高の枠を超えた連続的、横 断的教育体制の構築」は大変良いフレーズ。それをどこかに入れてもら うことができれば、小中一貫校の話が出て、それを根拠に検討できる のではないか。</p>
教育総務課長	<p>プランの中で一つの選択して盛り込んでおり、ソフトの面でも高等学</p>

	校以上との連携という部分で加えてあるため、ご理解いただきたい。
D 委員	岡谷小の統廃合について、実際に聞いたのが統合の2年ぐらい前だった。岡谷小に入学するか、神明小に入学するか、悩んでいる保護者がいたので、こういった話については5年ぐらい前から出してもらった方が、保護者としては余裕を持って考えることができる。
教育部長	岡谷小は少子化が理由ではなく、耐震改修を行うにあたり、玄関前で空洞化があったり、建物に亀裂が走っていたり、おかしい点が見られたことから、2年かけて地盤調査を行った結果、軟弱地盤であることが判明したため、子ども達の安全・安心を優先すべきとのことから、あり方検討委員会を立ち上げ、移転や存続を含め検討したが、軟弱地盤であることや、耐震改修をしていない建物に何年も子ども達を通わせるわけにはいかないという点が最初にあったため、急いだ感はある。今後は少子化ということでの統廃合が考えられるが、この5年間は考えていない。児童数の推移を見ながら、5年後位にさらにその先5年間について検討し、その時に本格的な議論をして、統廃合ということになれば、長い期間、みなさんとお話をしなければいけないと思っている。5年間位で済めば良い方というのが全国的な統廃合の流れ。情報発信しながら、皆さんのご意見をいただき、じっくり考えて頂く時間を取っていきたい。
L 委員	教職員の負担軽減について、世の中で「働き方改革」が取り上げられているが、この計画を推進するにあたり、教育を享受する方が中心に書かれているが、推進する側の立場の負担とか働き方改革について、PTA連合会と連携して取り組むようなことを進めた方が良いと思うが、何かあればお聞かせ頂きたい。
教育担当参事	働き方改革は大きな問題。教育委員会において教員の働き方改革の取り組みをしているところ。プランの中で、働き方改革に資する展開をしていくことを盛り込んでいく。本年度は、夏休みに完全閉庁を実施した。先生方には本当の夏休みを取って頂き、来年はさらに延長するような形で対応とっている。また出退勤管理や会議の厳選などにより先生方の負担を減らしていきたい。さらに部活動についても、先生方の大きな負担となっている。部活動指導員の導入について予算も検討しているところである。魅力と活力ある学校づくり推進プランの中で網羅して行きたい。
L 委員	部活動についてはスポーツの推進とも関わる点があり難しいと思うがよろしくお願ひしたい。
部会長	施策5-1生涯学習の推進について、ご意見を頂きたい。
E 委員	主な取り組みの中に、「生涯を通じた学びの推進」とあるが、「推進」という言葉の中に、情報の適切な発信みたいなものも入っているか。
教育担当参事	知識や技能を獲得する機会を充実するということで、その機会をいくら充実しても発信しなければ獲得に結び付かないため、情報発信も含まれているとご理解いただきたい。
E 委員	次の施策に「その成果を広く発信する」とある。全体的に見て、市が

	<p>やることばかりで、発信しないと市民は納得できないと思う。小学校のことも上手く発信さえしていれば、上手くいったと思う。基本構想の中で発信することをきちんと位置づけないと、市民から評価されない。施策6になって初めて「発信」という表現が出てきた。全体的に聞いていて、情報が発信されていないと感じる。人口を増やすためにも情報発信は必要。もう少し発信に力をいれるべき。</p>
<p>F 委員</p>	<p>施策5-1のKPIとして、図書の貸出冊数が設定されている。貸出冊数が図書館の評価になっていると思う。いろいろな評価軸があり代表的なものとして載っていると思うが、マンガ本やベストセラー作家の本を揃えれば、貸出冊数は簡単に伸ばすことができる。しかし、それが公共図書館のやるべきこととは違う。これが、本屋のない山の中の図書館であれば別だが、本来は純粋な入館者数で評価するべき。この点については、以前からさまざまな機会を通じて申し上げているが、相変わらず貸出冊数が出てきて、しかもその数字が減少しているのに、目標とされていることに疑問を感じる。そろそろ変えるべきである。カウントしていない、カウントできないということがあるかもしれないが、カウントできるように対応すべき。</p>
<p>教育部長</p>	<p>入館者数については、昨年度よりカウントを始めている。今までの実績がないため、総合計画の載せることの可否について、内部でも議論し尽くされていない。また、目標数値としてどのくらいが適切なのか、目標として定めにくい。</p> <p>これまで病院工事の関係で貸出冊数が減少していたが、工事も終わったため、情報発信をして利用を増やしたい。今後は、入館者数を目標値としていくことを検討したい。教育部全体として、図書館には力を入れたいと考えている。</p>
<p>F 委員</p>	<p>地方の公共図書館が「知」の拠点としての機能を期待されている。図書館で地域を変えていく動きもある。図書館には力を入れていくとのことなので、それが分る取り組みを入れた方が良いと思う。</p>
<p>D 委員</p>	<p>住んでいる場所によっては、親が子どもを車で送迎しないと図書館に行くことができない。できることなら、子どもだけでいければよいと思う。学校近隣などに文庫があれば身近に借りることができると思う。</p>
<p>教育部長</p>	<p>本館と3公民館には図書室を設けてある。このほか、保育園や幼稚園には本に親しんでもらいたいとのことから、20年以上前から本を設置している。また小学校にはPTAの母親文庫や図書室がある。</p> <p>岡谷市はかなり子どもに対する本は攻めの姿勢で、これまで各地区に配置してきた。その施設が身近にという点は理解できる。現在まちかど図書館ということで、諏訪湖ハイツやロマネット、勤青ホーム、市役所ロビー、市民体育館、美術考古館など8施設に本を置くようにしている。今後もできるところからやっていければと考えている。</p>
<p>教育担当参事</p>	<p>図書館についてはもっと力をいれていきたいと考えている。例えば図書館に冷房を設置し、夏休みなど長期休業中にお子さんが自由に入ってもらえるようなことができると考えているが、予算の関係もあるため、時間が係るかも知れないが、取り組んでいきたい。とりあえずは、</p>

	<p>学校にある図書館を充実させていきたい。</p>
D 委員	<p>学校の図書館がいつも使える状態であればすごく良いと思う。</p>
F 委員	<p>学校図書館の予算が微減していると思う。今回の5総は一番最初に子どもたちの育成のことが掲げられてメインとなっている。図書館の環境も大事だが、一番は色んな本が沢山ある、小さな学校でも揃っているということが、一番大事なこと。</p> <p>予算が厳しい中で減らされていくことは無理もないが、いかがなものかと思う。その辺はどうなのか。</p>
教育担当参事	<p>大変苦慮しているところ。できれば何とかしたいが、市の財政状況そのものも上向きになっていけばとの想いを常に持っているが、そうした中で財政状況が許せば、対応していきたいと考えている。想いは委員さんと一緒である。</p>
F 委員	<p>学校の規模に応じて予算が違う。でも、それもどうなのかと思う。小さな学校で、児童の数は少なくとも、本は同じように揃えるべき。公共図書館との連携などを考えていただきたい。</p>
部会長	<p>続いて、施策6-1 スポーツの振興について、お願いしたい。</p>
D 委員	<p>スケート人口はどのようになっているのか。</p>
スポーツ振興課長	<p>スケートは岡谷市の文化であると思っている。現在、小中学校の児童生徒もスケートに取り組む人が少なくなっている。クラブ活動を合同でやるなどの取り組みを行っているが、広がらないのが現状。平昌オリンピックもあり活動が活発になった側面もあるが、スケート人口の増加には至っていないのが現状。スケートは岡谷市の文化にとって大事なものであるため、今後も、施策として取り組んでいきたいと考えている。</p>
D 委員	<p>小学校や保育園でスケート教室があるが、これまでワンシーズンに2～3回あったものが減らされてしまっている。スケートのまち岡谷を考えると、予算の関係もあるかも知れないが、回数を増やしてほしい。</p> <p>遠くの小学校からやまびこスケートの森へ来ている子どもたちのほうが、上手に滑れている。岡谷市民として恥ずかしい部分でもあるので、回数を増やすことができれば、増やしていただきたい。</p>
教育部長	<p>授業として取り組む回数は減ってきている。減っている要因のひとつとして、授業のカリキュラムが非常にタイトになっており、道徳の教科化されたほか外国語や環境教育などいろんなことに取り組まなければいけなくなっている。スケート教室は2コマ、2時間を使わないと行き来できない状況。そういう中で、今後さらに英語の時間を確保したりしていくためには、減らさざるを得ない状況であり、スケートのまちづくりを進めていながら、苦しい選択を今までせざるを得なかったのが実情である。これ以上は少なくしたくないというのが教育委員会の考え方である。現在の小学校1・2年生が3回、3年生以上が1回は今後も確保したい。中学生はない状況であるが、その代わりに合同部活のような形で、岡谷市全体としてスケート部ということで、4中学校合同で行っている。</p>

	<p>そういうところには力を入れてアスリートは育成していきたい。また、幼い頃からスケートに親しめる機会を確保することは大切だと思うので、予算の状況もみながら検討していきたい。</p>
E 委員	<p>スポーツ施設利用者数の合計が出ているが、各施設の推移はどのようになっているか。</p>
スポーツ振興課長	<p>各施設の推移はあるが、今回のまとめの仕方では合計数値を記載している。</p>
E 委員	<p>利用者数が伸びている施設もあると思う。岡谷がこれからどのようなスポーツに方向付けしていくのか見極めるためにも、施設ごとの利用者の状況を明確にしなくて良いのか。それを検討して、力を入れる分野を判断することが必要ではないか。そうした細かな点は個別計画に記載されているのか。5年後に対して優先的に取り組むことがないと、優先順位が分からない。市民が何を求めるのかも見えてこない。</p>
スポーツ振興課長	<p>スポーツ推進計画の中では、個々に「これを伸ばす」といったような、具体的な記載はしていない。現在は、スポーツのまちづくりという形で、バレーボール、スケート、エースドッジボールを推進していくということで、取り組んでいる。</p> <p>現在の計画が平成31年度で終了となるため、第2次スポーツ推進計画の中で、取り組みについては記載していきたい。</p>
E 委員	<p>現状では、8箇所のスポーツ施設毎の利用者数のデータはないということか。</p>
スポーツ振興課長	<p>教育大綱の中で、各施設の利用者数の推移の検証は行っている。市営庭球場は利用が多く伸びてきている。卓球についても高齢者まで取り組んできている競技であり、色々な種目の利用者を伸ばしていきたい。人口減少といった状況もあるため、数字を伸ばすことが難しい面もあるが、幅広くスポーツに取り組んで貰いたいと思っている。</p>
E 委員	<p>利用者数が増えてきている施設については手厚く対応し、スポーツ施設がなくなっていくのはいけないと思うが、根本的に利用者の少ない施設、利用されない、市民の興味がない施設を残すことが、人口密度の高い岡谷市においてどうなのかと思う。</p>
教育担当参事	<p>特定の方や少数利用の施設については廃止した経過もある。スポーツ振興課で管理している施設については、どの施設も岡谷市体育協会でも活動されている団体が利用しているため、存続する意味があるのかという施設はない。</p>
部会長	<p>続いて、施策6-2 文化・芸術の振興についてお願いしたい。</p>
Q 委員	<p>情報発信の問題であるが、蚕糸博物館は「活動の促進により、市民をはじめ全国へ認知度を高める必要があります」と課題に書いてあり、そのとおりだと思うが、それに対する主な取り組みでは、認知度を高めることを受けておらず、企画をやります、発信しますと記載しているが、</p>

	<p>一番の問題が認知度を高めることならば、取り組みにもっと記載すべき。</p> <p>4 総では平成30年に5万人を目指すと言われているが、平成29年は35000人で、また2023年に5万人を目指すということは、発信が上手くいっていないのでは。発信して来てもらうというのは一番難しい活動だと思う。だとしたら、もう少し具体的な取り組みを盛り込んでいったらどうか。</p>
産業振興部長	<p>認知度を高めることの裏には発信があり、その結果として認知度を高めるということであるが、4 総の5万人については蓋を開けてみると思うように計画が進まなかったところもあるので、まずは実現可能性、余にも高い目標を掲げてしまうと絵に描いた餅にもなってしまいますので、足元の目標を定めながら情報発信をしていく、その方向に関しても、大きな計画の中であるため、SNSを通じたものや、展示会などでパンフを置く、来ていただいた方に2度、3度来ていただくというような形で多方面で取り組みをしておりますので、そのような内容を課題あるいは取り組みの中で、少し見えるように修文できればと考えている。</p>
Q 委員	<p>イベントは面白いとSNSで拡散する。アイデアを貰いながら面白い仕掛けを増やしていく努力が必要ではないかと思う。</p>
産業振興部長	<p>面白いと思っていただける企画については、蚕糸博物館でも年4回から5回程度、企画展を開催している。シルクに関する商品についてはふるさと納税でもやっている。まだまだ十分に全国の方には浸透していないかも知れないが、大事なのは面白い企画を立案することと同時に、途切れることなく継続して取り組んでいくことも必要であると思っているので、その両論をしっかりとやっていきたい。</p>
部会長	<p>全体と通してご意見はあるか。</p>
F 委員	<p>カノラホールのところ、市民参加型事業の推進があったり、下の方に施設の連携とあるが、施設同士の連携ということでよいか。</p> <p>参加と連携という意味では、音楽の市民団体や芸術の市民団体との連携、あるいは参加ではなく参画ということをやるときではないか。</p> <p>自分もある団体に入っているが、一緒にやりたいと思っても受入れてもらえないことがある。周年行事などでアイデアを持っていても、話をなかなか聞いてもらえないことが少なからずある。民活ではないが、連携、参画を行政の中ではなく、市民とやるという計画を盛り込んでいただきたい。</p>
産業振興部長	<p>そのような取り組みは好ましいだと思えるため可能な範囲で取り入れたいが、企画の立案という中でスタート地点が前になっていて企画が固まってしまうということもあって円滑に進まないこともあろうかと思う。今後、施設の連携は文化芸術の振興にとって必要な取り組みであるため、どういう形でそれができるのかという点も含めて検討し、改善の方向に向けて取り組みたい。</p>
F 委員	<p>アンケートで、カノラホールを誇れる施設と回答している人が大勢いる。ただの箱ではなく、一緒に活性かしていく、岡谷の文化の宝、誇りにしていくためには、行政だけではなく利用している市民の声も必要。</p>

<p>部会長</p>	<p>ぜひ盛っていただきたい。</p> <p>自分もある団体に加入しているが、市は活動内容のことを何も知らない。実際に利用している人たちがどのような活動をしているのか実態を把握して欲しい。</p> <p>建物ではなく、各施設でどのような人たちが、どんな活動しているのか、どのような想いで文化を繋いでいるのか、活動している実態を掴んでいただきたい。</p> <p>スポーツ分野も含め、市民の活動内容を把握していただきたい。</p>
<p>D 委員</p>	<p>音楽活動をしている。地域と学校が連携した音楽活動の取り組みについて検討してもらえないか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>地域との繋がりは大事にしていきたいと考えている。学校が求めているものと、地域が発信できるものを提案していただくなかで、上手く学校とマッチングを図り、できれば学習支援の中で一緒になって、子どもたちの授業を支援していただける制度を考えていきたいという考えをもっており、来年度予算のつくりの中で取り組んでいきたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>その他、質疑等あるか。 (発言する者なし)</p> <p style="text-align: right;">(部会終了)</p>

(3) 全体審議について

<p>会長</p>	<p>全体会議に移ります。最初に部会での審議状況について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>第一部会から説明させていただく。第一部会では、基本目標「ともに支えあい、健やかにくらせるまち」を議題としまして、政策「子ども・子育て支援の推進」、「福祉の推進」、「保健・医療の推進」の3つの中にある7つの施策について意見をいただいた。沢山意見をいただいた。施策1-1「子ども・子育て支援の推進」では、育児休暇、幼児教育の提供について質問があった。また、主な取り組みの部分で出会いや結婚についての記述があったほうが良いという意見があり、KPI(成果指標)の部分についても出会いや結婚に関する指標があったほうが良いという意見があった。担当部からは結婚前からの支援も含めているとの回答があったが、意見を踏まえて検討していくとの回答があった。また、新婚、子育て世代の居住環境についても質問があり、そういった支援体制は現在あるので、活用をしていただきたい。居住環境については、その他の施策とも関わっていることがあるので連動していきたいとの回答があった。</p> <p>施策2-1「地域福祉の推進」では、現在地域サポートセンターが設置されているが、地域ごとにレベルの差があることについてどう感じているかという質問があった。担当部からは、今回KPIで設定している非難行動要支援者個別計画登録申請率については100%を目指していきたい、また、要支援者の登録台帳については、消防、各地域、総合防災訓練等でも活用している。そういったことはよいことではないかという意見があった。</p>

企画課主幹

2-2「高齢者福祉の推進」ではKPIの要介護認定率について、この設定は難しいところがあるのでフォローの説明が欲しいとの意見があった。高齢者の居場所づくりについても重要な課題という意見があり、現在、生活支援コーディネーターを設置し、今後取り組みをしていくとの回答であった。高齢者の生きがい、仕事等の相談をうけながら支援していくとの回答であった。

2-3「障がい者（児）福祉の推進」では、ひとり親家庭の数はどうであるか。また、発達障がいの方等が増加しているデータについて質問があった。担当部からは、昔よりスタッフのノウハウ等が向上し、きめ細かく見れるようになってきたとの回答があった。

3-2「地域医療体制の推進」では、開業医の高齢化、後継者不足について課題があるとの意見があった。担当課からは、医師の確保の補助制度、大学生を対象とした後継者不足解消への取り組みも用意している。また看護専門学校も医療従事者の確保につなげていきたいとの意見があった。これ以外にも様々な意見をいただいたので、事務局でまとめて参考にさせていただきたい。

第二部会「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」について説明させていただく。第二部会でも沢山の意見がでた。

4-1「学校教育の推進」では、いじめや不登校について、親として非常に気になる部分。そういった重点的に取り組む部分については、記載をしたほうがとの意見がありました。担当部からは、主な取り組みの部分で表現をしている、また、具体的な部分については、現在策定中の「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」で記載し、取り組んでいきたいとの回答があった。少子化、施設の老朽化に伴い、小中学校の統廃合は避けては通れない。記載をする必要があるのではとの意見があった。これに対して担当部からは、「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」の中で具体的に位置づけていくが、教育委員会とすると、学校の規模として、一校あたり100名、一学級あたり10名というものを目安として考えている。今後5年間は維持できるということで今後5年間については統廃合しない方針を決定したとの回答であった。今後を見据えて検討していくと推進プランで位置づけていくとの回答であった。

5-1「生涯学習の推進」では、KPIについて図書の貸出冊数とあるが、冊数というよりは入館者数を増やすことが必要ではないかとの意見があった。担当課からは、今まで入館者数をカウントしてきていないので、目標数値とすることは難しい部分があるということで貸出冊数にしているが、今年度からカウントをしているので今後は意識していきたいとの回答であった。

6-1「スポーツの振興」では、岡谷市の独自の文化について、過去には小学校、幼稚園等ではスケート教室があったが、現在では、小学校1、2年生では3回、3年生では1回、中学校ではないということで、どういう風に考えているかとの意見があった。担当部からは、スケートに関しては岡谷市の文化ということで取り組んでいきたい。また、4中学校で部活動を行っており、引き続き行っていきたいとの回答であった。

6-2「文化・芸術の振興」では、課題の中で、蚕糸美術館について、市民をはじめ全国へ認知度を高める必要があるとなっているが、具体的にはなにをやるのかといった意見がありました。担当部からは、SNSや魅力的な展示会、リピーターの確保といったことが考えられる。こういったことが目に見えるように前期基本計画の修正を検討したいといった回答

	<p>があった。また、KPI の部分で、施設で行われるイベントに参加される人数というよりは、市民参加型の取り組みが必要があるのではとの意見がありました。担当部からは、可能な範囲で取り組んでいきたい、また、こういう形で取り組むことができるのか検討してきたいとの回答があった。</p>
会長	<p>補足等ありましたらお願いしたい。 P54 に目次があり、「人が生き交い」とあるが、「人が集い」でよいのか。</p>
企画課主幹	<p>「人が集い」でよい。修正させていただく。</p>
F 委員	<p>学校教育のところ、4 総のところにも、小中学校の統廃合の検討を進めると書いてある。そのときよりも確実に少子化は進んでいくと思う。この 5 年間は検討しないとのことであったが、すごく大切な問題であると思うので、この中に盛り込むべきだと思う。是非検討すべきだと思う。</p>
教育担当参事	<p>統廃合は実施しないのであって、検討は進めていく。</p>
F 委員	<p>是非、この中に文章で盛り込んでいくべきだと思う。検討いただきたい。</p>
会長	<p>P65 の KPI の数値について正直この数字が適せ出あるかの判断ができない。わかるようなコメント等があるといいと感じた。</p>
健康福祉部長	<p>出し方、考え方については、しっかり表記をさせていただく。終了時目標の 16.35 という数字は「第 8 次岡谷市高齢者福祉計画」を市民の皆さんを委員として計画を策定し、その際に、この数字を設定した。個別計画との整合性を図るためにこの数字を記載している。これより下げていくというスタンスは変わらない。</p>
会長	<p>本日の審議はこれにて終了とさせていただきます。</p>

4 閉会

B 副会長	<p>長時間に渡り、活発なご審議ありがとうございました。以上で第 4 回岡谷市基本構想審議会を終了とさせていただきます。</p>
--------------	--